エコパークゾーンについて

エコパークゾーンは、広大で様々な地域特性を有していることから、4つのゾーンに分けて、地域ごとの特色を活かしながら自然環境の保全・創造に向けた様々な取り組みを行っています。



① 海の中道ゾーン

海の中道海岸は「日本の白砂青松100選」や「日本の渚100選」にも選ばれている、素晴らしい景色の場所です。

② 和白干潟ゾーン

干潟を中心とした豊かないのちを育む空間として整備を進めており、塩浜地区では、生物が定着しやすく自然の浄化機能に優れた護岸の整備を行っています。

③ 香住ヶ丘ゾーン

砂浜、磯浜などの自然海岸や緑地とふれあえる空間としての整備を行っています。

④ 御島ゾーン

神功皇后ゆかりの特色ある御島の歴史を感じ、散策や憩える空間として整備するとともに、野鳥や海生生物の生息環境の保全を行っています。

【アイランドシティはばたき公園】

エコパークゾーンの豊かな自然と人との共生を象徴する施設として整備しており、シギ・チドリ類などの鳥類が観察できる設備があります。バードウォッチングなどのイベントを通して自然環境を学ぶことができます。





福岡市港湾空港局
事業調整部事業管理課
〒812-8620　福岡市博多区沖浜町12-1
TEL：092-282-7035　FAX：092-282-7044
mail：jigyokanri.PHB@city.fukuoka.lg.jp

福岡市ホームページ アイランドシティサイト
https://www.city.fukuoka.lg.jp/kowan/jigyokanri/islandcity/top.html

アイランドシティ
FUKUOKA ISLAND CITY

再生紙を使用しています
2026.10（20版）

FUKUOKA ISLAND CITY

ふくおかアイランドシティ



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

九州・西日本地域の経済活動を支える物流拠点と海に抱かれた緑あふれる住環境

アイランドシティは博多港の港湾機能強化を目的に、
大水深の航路整備で生じるしゅんせつ土砂などを活用して誕生した都市空間です。
この貴重な空間を活用して新しい「みなとづくり」「まちづくり」を行い、
福岡市の将来をリードする先進的モデル都市づくりを進めています。
アイランドシティは、九州・西日本における豊かな市民生活や地域経済の活性化に
大きく貢献していきます。



福岡市は、アジア・世界へのゲートウェイ

日本で最もアジアに近い都市 ── 福岡市。福岡・博多のまちの歴史は、金印伝来で知られる約2,000年前の「奴国」までさかのぼり、その後、外交施設・迎賓館である「鴻臚館」の時代、博多商人を生んだ自由都市「博多」の時代など、福岡・博多のまちは「みなと」を核としながら、日本とアジアとの人・物・情報の交流窓口として栄えてきました。福岡市は、そうした地理的・歴史的特性を生かして、「アジアの交流拠点都市」をめざし、アジア・世界へのゲートウェイとしてさらなる発展を遂げようとしています。




海の中道大橋


自動車専用道路
アイランドシティ線

平成14年10月に香椎パークポートからアイランドシティを経由して、雁の巣につながる道路が開通しました。その結果、雁の巣や和白方面から香椎・都心向けの所要時間が大幅に短縮されるとともに、慢性的に渋滞していた和白周辺の交通混雑が大幅に改善しています。

また、令和3年3月には自動車専用道路アイランドシティ線が開通し、広域的なネットワークが形成されています。

アイランドシティまでの所要時間

天神から……約17分
福岡空港から…約15分
福岡ICから……約9分
※都市高速道路を利用した場合

ISLAND CITY

OUTLINE

アイランドシティ整備事業の目的

みなと　港湾機能の強化

私たちの暮らしや経済を支える博多港。世界とつながる国際物流拠点として港湾機能の強化を図ります。

新産業　新しい産業の集積拠点の形成

アジア・世界を見据えた新しい産業の集積拠点を形成し、福岡市の21世紀の活力を創造します。

住環境　快適な都市空間（住環境）の形成

人と地球にやさしい住環境と活力あるコミュニティを創造します。

交通　東部地域の交通体系の整備

海の中道地区への道路を整備することにより、和白周辺の交通渋滞の緩和を図るなど、東部地域の交通体系整備へ寄与します。

みなとづくりエリア

大型コンテナ船が接岸できる水深15メートルの岸壁や、九州最大・高規格のコンテナクレーン、国内初の電動トランスファークレーン、IT技術を積極的に活用した高度な物流情報システムなどを備えた高機能・高効率な最新鋭のコンテナターミナルを整備するとともに、その背後においては、高度な物流機能の集積を図るなど、世界とつながる国際物流拠点の形成をめざしています。

まちづくりエリア

誰もが快適な生活を営むことができる住宅地の整備や、環境との共生を図る豊かな緑地空間の整備など、質の高い都市空間づくりを行っています。また、福岡市の特性を活かし、高い成長性や裾野の広がりが期待できる健康・医療・福祉分野などに関する、新しい産業の集積拠点を形成するとともに、広域から人が集まる商業・業務機能、教育・文化・芸術等の情報発信機能などの多様な都市機能の誘導を図り、魅力ある都市づくりを進めています。

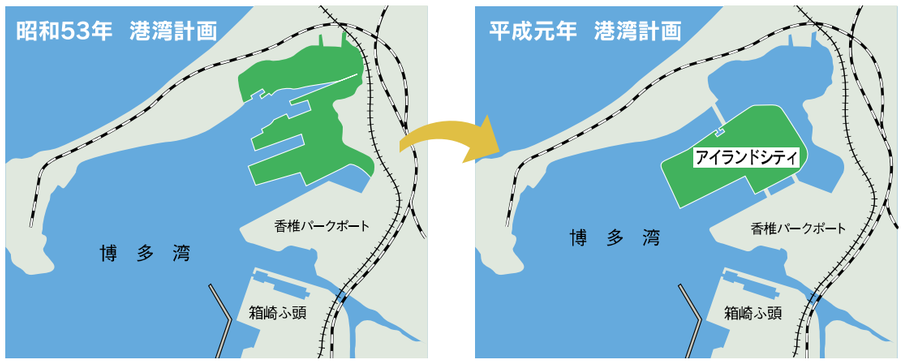
アイランドシティ整備事業の進捗状況



埋立計画の変遷

アイランドシティ周辺の和白干潟を中心とした区域は、多くの野鳥が飛来するなど豊かな自然環境に恵まれています。

この貴重な自然環境を積極的に保全するため、干潟を埋め立てる計画から「島形式」の埋立計画へと変更し、さらに、アイランドシティ周辺海域を中心とした約550haのエリアを「エコパークゾーン」として、多様な主体と連携・共働した環境保全創造に取り組むとともに、市民が豊かな自然にふれ親しむことのできる水辺空間づくりを行っています。



博多湾は水深が浅く、そのままでは大きな船（大型船）が入ることができません。大型船も安全に入れるように、海底を掘って船の通り道（航路）をつくります。その海底を掘る工事で発生する土砂を活用して、アイランドシティやシーサイドももちなどの埋立が行われました。







アイランドシティの規模



アイランドシティを都心部にあてはめると、およそ博多駅から天神まですっぽり入る大きさです（約401ha）。これは能古島（約395ha）とほぼ同じ面積です。

裏表紙のロゴについて

アイランドシティ
FUKUOKA ISLAND CITY

令和７年秋、まちびらき20周年を迎えたことを記念し、アイランドシティにお住まいの方々の声を集めて記念ロゴを作成しました。

アイランドシティのイメージカラーや建物だけでなく、スカイライン（高い建物はまちの中心にあり海に向かって建物の高さが低くなるまちなみ）を表現しています。

PROCESS

平成元年7月
博多港港湾計画改訂（島形式への変更）

平成６年　4月　公有水面埋立免許取得
　　7月　工事着工
平成13年　7月　博多港港湾計画改訂（土地利用の変更）
平成14年 10月　アイランドシティ主要幹線道路の供用開始

平成15年9月
C1 国際コンテナターミナルの供用開始

平成16年　3月　みなとづくりエリアへの民間企業進出
　　（物流センター操業開始）
　　4月　特定埠頭運営効率化推進事業の実施
　　（コンテナターミナルの公設民営化）
平成17年　3月　博多港開発㈱旧2工区の埋立権を福岡市が
　　譲り受け（市5工区）
　　9月　「第22回全国都市緑化ふくおかフェア」
　　〃　（アイランド花どんたく）

平成17年11月
「照葉まちびらきフェア」開催

平成17年 12月　「照葉のまち」住宅への入居開始
平成19年　4月　「照葉小学校」開校、「サイバー大学」開学

平成19年4月
「アイランドシティ中央公園」全面開園

平成19年　6月　「福岡ビジネス創造センター」開設（～平成29年3月）
平成20年　4月　「照葉中学校」開校
　　7月　「臨海部物流拠点（ロジスティクスセンター）」を
　　港湾計画に位置づけ
　　10月　C2 国際コンテナターミナル
　　（水深15m岸壁）一部供用開始
平成21年　5月　膝・股関節外科病院 開院
　　7月　「照葉公民館・いこいの家」開館
平成22年　1月　C2 国際コンテナターミナル供用部分を拡張
　　4月　民間保育所 開所
　　10月　特別養護老人ホーム 開設
平成24年 10月　「アイランドシティ・アーバンデザインセンター」開設
　　（～平成29年3月）
　　「CO_2ゼロ街区（照葉スマートタウン）」まちびらき

平成25年3月
「あいたか橋（海上遊歩道）」開通

平成25年　4月　民間幼稚園 開園
　　地域密着型高齢者施設 開設
平成26年　3月　アイランドシティ主要幹線道路の拡幅供用



令和８年１月の航空写真



コンテナターミナル



アイランドシティ中央公園



あいたか橋（海上遊歩道）

平成26年11月
「福岡市立こども病院」開院

平成26年 11月　調剤薬局 開設
平成27年　6月　高度・多機能型リハビリテーション病院 開院
　　8月　メディカルビル 開設、温浴施設 開設
　　9月　アイランドシティまちびらき10周年記念式典

平成28年2月
青果市場「ベジフルスタジアム」開場

平成28年　3月　博多港港湾計画改訂（土地利用の変更）
　　4月　小規模保育事業所 開所、民間保育所 増設

平成29年4月
C2 国際コンテナターミナル全面供用開始

平成30年　1月　高度リハビリテーション施設 開設

平成30年12月
「福岡市総合体育館」開館

平成31年　3月　バス営業所 開設
　　4月　「照葉北小学校」開校
令和元年 11月　住宅型有料老人ホーム 開設
令和２年　3月　商業・宿泊複合施設 開設
　　9月　「照葉北公民館・いこいの家」開館

令和3年3月
自動車専用道路アイランドシティ線 開通

令和３年　9月　C2 国際コンテナターミナル延伸部供用開始
令和５年　3月　D 国際コンテナターミナル（C2岸壁延伸部拡張部）
　　供用開始
令和６年　4月　「照葉はばたき小学校」開校

令和6年4月
「アイランドシティはばたき公園」一部開園

令和７年　4月　「照葉はばたき公民館・いこいの家」開館
　　10月　アイランドシティまちびらき20周年記念式典
令和８年　1月　「照葉北公民館・いこいの家」移転



福岡市立こども病院



青果市場（ベジフルスタジアム）



福岡市総合体育館



自動車専用道路アイランドシティ線（福岡高速６号線）



アイランドシティはばたき公園

PORT

みなとづくりエリア





アイランドシティ国際コンテナターミナル

市民生活、経済活動を支える国際コンテナターミナル

アイランドシティの国際コンテナターミナルは、大型コンテナ船が同時に接岸できる最大水深15メートルの岸壁を有するとともに、環境配慮型荷役機械や物流ITシステムを積極的に導入しています。現在、博多港の国際海上コンテナの約7割をアイランドシティで取り扱っています。

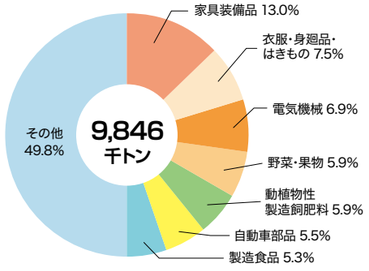
みなとと生活の関わり

博多港は、暮らしに必要な物資を供給する国際貿易港として、世界各地の港とつながっています。主な取扱貨物は、家具、衣類、電気機械、野菜・果物など生活に密着したものを数多く輸入しており、自動車、タイヤ、産業機械、古紙などを世界に向けて輸出しています。

※令和8年9月現在、コンテナ定期航路により9ヵ国・地域の42港とダイレクト接続

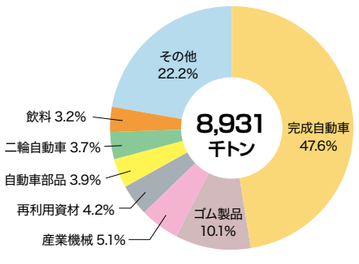
■海外から輸入している物

（令和7年速報値・博多港）



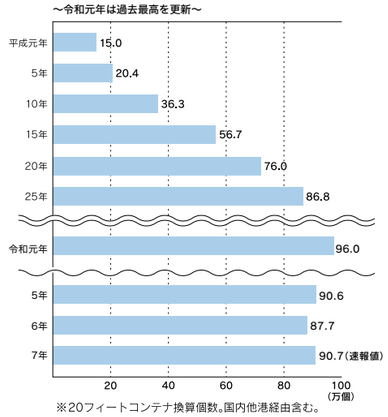
■海外へ輸出している物

（同左）



■博多港国際海上コンテナ取扱個数推移

～令和元年は過去最高を更新～



※20フィートコンテナ換算個数。国内他港経由含む。

物流機能の強化・集積が進むアイランドシティ

コンテナターミナル後背地の港湾関連用地には、大規模物流施設の立地が進むとともに、平成28年2月には青果市場「ベジフルスタジアム」が開場しています。

また、自動車専用道路アイランドシティ線（福岡高速6号線）が令和3年3月に開通し、広域的なネットワークが形成されています。



大規模物流施設



青果市場（ベジフルスタジアム）



自動車専用道路アイランドシティ線
（福岡高速6号線）

アイランドシティ 国際コンテナターミナルの概要

ターミナル総面積		約48.5ha
岸壁	全長	890m
	水深	-14m 1バース
		-15m 2バース（耐震）
コンテナクレーン	定格荷重	40.6ton
	基数	6基
	アウトリーチ	50m

災害に強いみなとづくり

地震などの災害時や停電時においても物流を阻害することなく、コンテナターミナルの機能を維持するための取り組みを進めています。

主な取り組みは、ガントリークレーンの免震化※1や停電時におけるリーファーコンテナ及びターミナルシステムの電力確保※2などです。

※1 地震によるクレーンの脱輪や脚の浮き上がりを防止し、地震後の早期再稼働が可能

※2 荷役機器に搭載しているディーゼルエンジンを利用して、ターミナル内の受変電所に電力を直接供給できる仕組みを確立

脱炭素

「CNP認証（コンテナターミナル）」制度で全国唯一の“最高評価”を獲得

博多港は、港湾の脱炭素化を促進するカーボンニュートラルポートの形成に取り組んでおり、アイランドシティコンテナターミナルは令和7年9月、国土交通省の「CNP認証（コンテナターミナル）」制度で全国唯一の最高評価「レベル5＋」を獲得しました。

【アイランドシティコンテナターミナルの取り組み事例】



インバータ制御方式の
ガントリークレーン（全6基）



電動式トランスファー
クレーン（全26基）



TOWN

まちづくりエリア





照葉のまち

人と地球にやさしい住環境と活力あるコミュニティの創造

海と緑を身近に感じ、健やかで生き生きとした暮らしを実現する住環境の整備や賑わいとふれあいの場などの創出を進めています。

緑あふれるまちづくり

環境共生を実感できるまちづくりを目指し、緑の象徴となる「アイランドシティ中央公園」や「アイランドシティはばたき公園」、これらを結ぶ「グリーンベルト」等の整備を進めています。

アイランドシティ中央公園には、雨水を利用した池を囲むように多目的広場や体験学習施設「ぐりんぐりん」を配置し、市民の憩いの場となっています。



アイランドシティ中央公園



グリーンベルト

脱炭素社会の実現に　向けた取り組み

脱炭素

太陽光発電設備の設置やZEH※（ネット・ゼロ・エネルギーハウス）の基準を満たす住宅の開発等、環境に配慮した国内トップレベルの脱炭素型まちづくりを進めています。

※外皮の断熱性能を大幅に向上させるとともに、高効率な設備システムの導入により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギーを実現したうえで、再生可能エネルギーを導入することにより、年間の一次エネルギー消費量を収支ゼロとすることを目指した住宅



CO_2ゼロ街区

賑わいとふれあいの場（センター地区）

センター地区では、広域から人が集まる商業・業務機能、教育・文化・芸術の情報発信などの多様な都市機能の誘導に取り組んでいます。



商業施設



温浴施設

快適な親水空間の創出

まちづくりエリアの海沿いには、散策やサイクリングなどが楽しめる外周緑地や「あいたか橋（海上遊歩道）」を整備し、快適な親水空間を創出しています。



あいたか橋



外周緑地

御島グリーンベイウォーク

アイランドシティと香住ヶ丘を結ぶ「あいたか橋（海上遊歩道）」が完成し、1周約3kmの周回コースができたこのエリアは多くの人が集う憩いの場となっています。

海や風を感じながら自然観察、ウォーキングなどができ、健康づくりに最適です。



安心・安全なまちづくり

歩行者・自転車のための空間確保や無電柱化を進めています。



教育環境の充実

一体的な小中連携教育に取り組んでいます。



照葉小中学校・照葉北小学校

健康・医療・福祉関連分野

「生活」と「産業」の両面から、生涯を通じてだれもが健康で生きいきと暮らすことができる「健康・医療・福祉のまちづくり」に取り組んでいます。



福岡市立
こども病院



福岡市
総合体育館